

令和2年度 日向市立財光寺南小学校 学校評価

評価段階 A とてもよい=4 B だいたいよい=3 C もう少しである=2 D あまりよくない=1

	重点目標	自己評価等 ※A～Dの数値は%						分析及び改善策等	学校運営協議会委員の御意見と評価	
		対象	A%	B	C	D	評価			
確かな学び	1 分かりやすい授業に向けた手立ての工夫	児童	52.6	39.9	6.0	1.5	3.4	○ AB評価が概ね90%以上となっている。しかし、C評価の児童が7.3%(前年4.8%)であることから、コロナ禍における指導の在り方を工夫し、個々の学びの充実を図る必要がある。 ☆ 各学期ごとに学習の定着をしっかりと見届け、学習状況について家庭と連携を図る。 ☆ 県が示している「授業のチェックポイント」を確認し、教師の相互授業参観やICT活用の研修等により、授業力向上の研修に努める。	3.3	3.1
		保護者	40.7	55.1	4.2	0.0	3.4			
		職員	17.0	64.0	19.0	0.0	3.0			
2 望ましい学習習慣の定着に向けた手立ての工夫		児童	32.8	43.9	19.1	4.2	3.1	○ コロナ禍であり、発表等を控えるようにしたため、児童の評価が低くなったと言える。また、学習習慣の定着についても職員のA評価は少なく、対応の難しさが出ている。 ☆ コロナの状況に応じ、発言の場等を確保する等、今後も授業の工夫・改善を図っていく。 ☆ 家庭と連携し、一貫した指導を継続して取り組んでいく。	3.1	2.9
		保護者	46.6	50.3	2.9	0.3	3.4			
		職員	6.0	77.0	17.0	0.0	2.9			
3 家庭学習の習慣化に向けた手立ての工夫		児童	71.3	17.7	8.7	2.3	3.6	○ AB評価については、それぞれの対象者で概ね良好な結果となっている。しかし、児童のA評価が昨年度より5.7%減少し、CD評価が5%程度増えている。 ☆ 家庭学習については、個人差がみられる。特に、今年は、コロナの影響から、学校と家庭での共通理解が不十分であった。今後も共通理解の場を工夫し指導の徹底に努める。	3.3	3.1
		保護者	44.5	45.4	9.6	0.5	3.3			
		職員	13.0	62.0	25.0	0.0	2.9			
4 読書習慣の定着に向けた手立ての工夫		児童	52.2	28.5	12.3	6.9	3.3	○ 学校の重点課題の一つであり、各対象のA評価が昨年より向上している。しかし、C、D評価が20～30%見られる。学校、家庭での取組により個人差への対応がさらに必要である。 ☆ 本年度から外部の方による読み聞かせに取り組んでいる。今後も「読書祭り」など、読書に親しむ場の充実と家庭との連携を図る。	3.1	3.4
		保護者	29.1	42.2	23.7	5.0	3			
		職員	29.0	64.0	7.0	0.0	3.2			
豊かな心	1 元気な挨拶や会釈の定着のための手立ての工夫	児童	65.2	26.9	6.7	1.2	3.6	○ 学校の職員だけでなく、学校訪問者等や校外での挨拶が十分でないことが数字に現れている。一方、児童のAB評価(92.1%)は、昨年(89.1%)より上回っており、意識は高まっている。 ☆ 「あいさつ運動」の取組や学級指導を今後も継続していく。また、地域、家庭との連携に努める。 ☆ 職員の率先垂範による指導に努める。	3.2	3.3
		保護者	42.2	47.7	9.6	0.5	3.3			
		職員	12.0	41.0	47.0	0.0	2.7			
	2 温かい人間関係づくりに向けた手立ての工夫	児童	68.7	24.9	4.9	1.5	3.6	○ 昨年度より児童のA評価が6.1%下がっている。93.6%の児童は良好な人間関係にあると考えられるが、CD評価の児童を「0」にしていく取組を続ける必要がある。 ☆ 今後も「いじめアンケート」や教育相談等、常時、好ましい人間関係づくりを図る指導や支援に全職員で取り組んでいく。 ☆ 必要に応じて家庭訪問や教育相談を実施していく。	3.3	3.1
		保護者	38.3	52.3	8.9	0.5	3.3			
		職員	26.0	57.0	17.0	0.0	3.1			
	3 規範意識や思いやりの心、基本的な生活習慣(スリッパ並べ、廊下歩行等)の定着	児童	60.4	31.4	7.8	0.5	3.5	○ 児童の評価は概ね肯定的である。校内におけるスリッパ並べや廊下歩行など、職員が課題と感じるところも多く、評価に差が見られる。よりよいものとするために、児童の意識をさらに高める必要がある。 ☆ 必要な事項をしっかりと教え、実践できるようにするために日々、指導と支援を行っていく。また、また、児童自らが問題意識を持って取り組むような指導を工夫していく。	3.2	3.1
		保護者	36.1	55.8	7.9	0.3	3.3			
		職員	9.0	59.0	32.0	0.0	2.8			
	4 特別支援教育の充実	児童	/	/	/	/	/	○ 特別支援教育に関する理解が高まりつつあり、全体的に肯定的な評価である。教育的配慮が必要な児童への理解など、今後も地域、家庭との連携が必要であるとする。 ☆ 参観日等、学校行事の機会を活用するとともに、文書による啓発など、特別支援教育の理解に努めていく。必要な支援を行うとともに保護者との教育相談の充実にも努める。	3.1	3.3
		保護者	45.0	48.5	6.5	0.0	3.4			
		職員	11.0	69.0	20.0	0.0	2.9			

健康・安全	1	運動や戸外での運動遊びの奨励	児童	76.3	17.2	4.5	2.0	3.7	3.3	○ 90%以上の児童が進んで運動に取り組んでいる。全体的にABの評価は高いが、今年は、コロナ禍のため、体力向上を図る学習が十分に出来なかったため職員の評価はあまり高くない。 ☆ 本校の「体力向上プラン」の取組に基づき、今後も運動の楽しさを味合わせ、体力向上を図るための運動の在り方を工夫していく。	○ ステイホームで体を動かすことが難しかった1年だった。 ○ 学校任せにならないよう、家庭での取組やきめ細かな情報提供、共有化が大切である。	3.4
			保護者	46.1	48.3	5.6	0.0	3.4				
			職員	18.0	54.0	28.0	0.0	2.9				
	2	早寝・早起き・朝ご飯の定着に向けた手立ての工夫	児童	58.9	29.7	8.5	2.9	3.4	3.3	○ 基本的な生活習慣が乱れがちな事もみられた。特に、早寝・早起き・朝ご飯に関わるメディア(ゲーム、テレビ等)との付き合い方については、昨年度からの課題として残っている。 ☆ コロナ禍で取り組めなかった学校保健委員会の活動や学級懇談の充実を基本とし、学校運営協議会の取組や学校だより、学級通信等、啓発活動の工夫を図っていく。	○ OPTA活動が思い通りに出来ず、保護者向けの活動が出来なかったことは残念で、反省するところである。 ○ 学校任せにならないよう、家庭での取組やきめ細かな情報提供、共有化が大切である。 ○ 家庭、児童への徹底した指導を御願いたい。 ○ スマホやゲーム等のメディアコントロールの取組が大切である。	3.2
			保護者	42.7	48.2	8.8	0.2	3.3				
			職員	20.0	67.0	13.0	0.0	3.1				
	3	給食指導や弁当の日の取組による望ましい食習慣の育成	児童	73.5	18.4	6.5	1.6	3.6	3.4	○ 弁当の日は実践できていないが、授業、学級での指導、給食指導を通して、概ね肯定的な評価である。しかし、偏食や少食などの個人差に応じて、家庭と連携し望ましい食習慣の育成を図る必要がある。 ☆ 学年に応じた具体的指導、栄養教諭の食育指導等を通して、児童の食への関心を高め望ましい食習慣の育成を図る。	○ 偏食や少食、アレルギー状況など、PTAでも情報を把握していた方が対応できると考える。 ○ 各家庭でも好き嫌い無く食べてもらう工夫をすることで食べる喜びを感じてもらう事が出来る。 ○ 給食時間に委員会の児童が給食に関する放送をしていることに感心した。 ○ 学校任せにならないよう、家庭での取組やきめ細かな情報提供、共有化が大切である。	3.5
			保護者	50.7	44.4	4.6	0.3	3.5				
			職員	21.0	61.0	18.0	0.0	3				
	4	避難訓練、交通安全教室等、安全教育の充実	児童	76.4	20.1	3.2	0.3	3.7	3.4	○ 計画通りの防災、安全の行事を実施することが出来なかったため、職員の評価が低い。各学級での指導は、十分に実施したが、自分の命を守るための行動が出来るよう、継続して指導の充実を図る必要がある。 ☆ 指導内容や方法を工夫し、あらゆる機会を通して、命の大切さについて教育の充実を図っていく。 ☆ 学校だより、ホームページ、通信等により地域との協働への働きかけに努めていく。	○ 日頃から意識することが大切だと思う。コロナ禍で、密を防ぎながらの指導は大変だった。 ○ 学校任せにならないよう、家庭での取組やきめ細かな情報提供、共有化が大切である。今後も計画的に継続して取り組んで欲しい。 ○ 保護者にも避難訓練や交通安全教室を見学してもらいたい。 ○ 周辺の高齢者の訓練参加など、地域との接点を保ってもらいたい。	3.4
			保護者	49.1	44.5	6.0	0.5	3.4				
			職員	14.0	64.0	22.0	0.0	2.9				
連携等	1	体験・ふれあい活動の推進によるキャリア教育の充実	児童	62.6	28.5	6.6	2.3	3.5	3.1	○ :計画通りに活動できない内容があったが、児童は、地域の方々の学習を通して、地域のよさや課題、将来の夢等について考える機会を得ることが出来た。児童の学びについて地域や家庭に発信し深めていく必要がある。 ☆ キャリア教育に関して、地域や保護者への啓発に努める。 ☆ コロナ禍における活動の工夫・改善に努めていく。	○ コロナ禍でも実践可能なものを少しでも見つけていくことが大切である。 ○ キャリア教育が今後、ますます重要である。 ○ 今後も学校でのひよつこ踊りの披露など、地域とのつながりを大切にしていって欲しい。	3.1
			保護者	36.4	53.0	10.4	0.3	3.3				
			職員	13.0	40.0	47.0	0.0	2.7				
	2	学校経営や教育活動等についての情報発信	児童	/	/	/	/	/	3.0	○ 保護者のAB評価は、84.2%であったが、情報発信不足についてのご意見があった。学校行事や児童の活動の様子などをしっかりと伝えられるよう工夫・改善する必要がある。 ☆ 学校だより、ホームページなど、情報発信するための手段を有効活用していく。 ☆ 家族との団らん等、メディアコントロールの取組を励行していく。	○ 情報発信するために、新聞、テレビ等のメディアを積極的に利用してはどうだろうか。 ○ 情報発信が少ないように思う。 ○ コロナ禍で、急な対応が難しかったと思う。 ○ 校長先生の区長会出席、情報交換、情報共有などの連携はよい。	3.0
			保護者	39.9	44.3	13.1	2.6	3.2				
			職員	14.0	57.0	29.0	0.0	2.9				
	3	参観日・学校行事の計画的実施と内容の充実	児童	/	/	/	/	/	/	/	/	/
小中一貫教育	4	グランドデザインの理解	保護者	32.9	50.1	14.4	2.6	3.1	3.1	○ 小中一貫教育に関して、まだ十分に定着しておらず、今後も理解を図るための工夫や改善が必要である。また、小中連携の活動も十分に出来なかったため、その取組や成果について広く発信できなかった。 ☆ PTA総会、参観日、学校だより、ホームページ、通信等で積極的な情報発信に努める。	○ 現段階では、取組が厳しい面がある。今後の情報発信の継続とその在り方が大切である。 ○ 情報共有が大切で有り、区長会等に協力を仰ぐこともよいと考える。	3.0
		グランドデザインの取組	保護者	31.9	51.7	14.9	1.4	3.1				
			職員	20.0	67.0	13.0	0.0	3.1				